



亀山市名誉市民

彫刻家
中村 晋也
Shinya Nakamura

作品紹介

ふるさとあい
vol.125

「伐蘇畔度菩薩」

平成22(2010)年

伐蘇畔度(ヴァスバンドゥ)は4世紀から5世紀の頃、パキスタンのペシャワール近郊で生まれたと言われています。兄の阿僧伽(アサンガ)と共に仏教教義を深め、多くの書物を残しました。手に持つ貝葉経はそのシンボルとして表現しています。光背には弥勒菩薩とゆかりのある龍華樹の花をデザインしています。弥勒菩薩から唯識の教えを授った阿僧伽と、仏教哲学を深化させた高僧の姿を表現しました。

ブロンズ像は長野県の蓼科山聖光寺で開眼法要されました。この秋、日展にこの原型が展示されます。



(高さ)156cm × (幅)37cm × (奥行)48cm
蓼科山 聖光寺(長野県)

特別協力

公益財団法人 中村晋也美術館

<https://www.ne.jp/asahi/musee/nakamura/>



まちかど

キラリ

小林 由紀子さん
(関町木崎)



関宿の歴史あるまちなみに馴染む建築設計事務所と併設して、令和5年4月にオープンした8畳ほどの書店「コバリブックス」の店主。建築やアート、自然に関する専門書からエッセーまで、店主のこだわりが詰まった本が並ぶ。最近のお気に入り、全国各地の畑などで見かける小屋の機能などを掲載した安藤邦廣・筑波大学安藤研究室「小屋と倉」。

8畳の“小さな本屋”が紡ぐ、本のある風景

書店のない関宿のまちなみに、「歩いていける本屋をつくりたい」との思いから、未経験で飛び込んだ小林さん。近くの飲食店が店内で本の販売を始めたことが背中を押し、“小さな本屋”への挑戦が始まりました。当初は本の仕入れ方さえ分からず、出版元へ直接電話をかける手探りの日々でした。しかし今では、建築家としての知見を生かし、まちなみに調和する古民家の専門書から、登山客向けの自然の本など、限られた8畳の空間に心を込めて選んだ本が並びます。

「店頭で置いた都市づくりに関する本がきっかけで会話が弾んだ観光客が実は大学の教授だった!」という驚き的一幕も。「本を介して生まれる一期一会のつながりが、この場所の大きな魅力です」と笑顔で話します。その温かな交流は周囲へも広がりを見せ、カフェや不動産会社など4店舗の“小さな本屋”が営まれています。

「不動産屋さんへは、私が本の取り次ぎを代行しています」と話す小林さんの周りに、ぽつりぽつりと本のある風景が生まれつつあります。

「車で書店に行けない子どもや高齢者が、身近で本と出会えるように。兼業でも小さな本屋が何軒もあれば、大きな書店に並ぶほどの存在になる。一つの本棚から、そんな関宿になったらうれしい」と目を輝かせる小林さん。その夢は、この場所を起点に文化と人が温かく交わる地域を育むことです。歴史あるまちなみに溶け込む“小さな本屋”は、今日も誰かの豊かな日常への扉を優しく開いています。

